

2021年度 第2回大阪実務者セミナー（ハイブリッド）活動報告

テーマ【悩みを共有し、共に歩もう！！】

～毎日の業務を楽しくするために～

日時 2022年2月19日（土）

会場 大阪府済生会吹田病院 東館2階センターホール

2022年2月19日（土）第2回大阪実務者セミナーを当研究会初のハイブリッドで開催いたしました。会員78名、非会員87名合計165名の方にご参加いただきました。

初めに、大阪府支部副支部長 堀田より開会の挨拶をいたしました。

2022年度は診療報酬改定があり2月9日に答申が出た中で、医師事務作業補助体制加算が見直されました。施設基準が、実務者の延べ勤務時間数8割以上が病棟や外来での配置など量的指標から、3年以上の経験を有する実務者が5割以上配置されるという質的なものに変化しており、私たち実務者や実務者を



管理する側ではこれまで以上に知識やスキルを高めることが求められます。大阪府支部では引き続き学び成長できるセミナーを開催していきますので、共に頑張っていきましょうと伝えました。

講演 1

大阪労災病院 呼吸器外科部長 太田三徳



大阪労災病院 呼吸器外科部長 太田三徳先生に「呼吸器疾患のお話」～感染症から肺がんまで～というテーマでご講演いただきました。呼吸器の解剖、主な検査、代表的な疾患、また肺がんの診断方法や検査・治療方針・術後合併症など詳しくご講演いただきました。その後、予定になかった新型コロナウイルス感染症の経過・重症化の要因、また初期から重症化への症状変化やコロナウイルスの特徴をご講演いただきました。呼吸器を担当していない実務者の方にも分かりやすく、アンケートからもよかったとの声を多くいただきました。

講演 2

岡崎市民病院 院長 早川 文雄

岡崎市民病院 院長 早川文雄先生に『難しい医師を理解する』脳の働きから読み解く医師の「トリセツ」いうテーマでご講演いただきました。まず発達障害についての『特性』という考え方から、高学歴・エリート・学者・達人・偉人に『特性』を有する人が極めて多く医師もそこに含まれること。特性である ASD と ADHD について説明いただき、日常の接し方が



難しいと思われる医師を 4 タイプに分類し、それぞれタイプごとに接し方を詳しくお話いただきました。当日の受講者の方からは 32 時間研修に組み込みたいとの声もあり、受講された実務者の方には目から鱗のご講演となったのではないのでしょうか。

【ご講演の質問&悩みのディスカッション】

ご講演いただきました内容を含め、参加者の皆様からの質問を、太田先生と早川先生、当研究会小島理事、進行役は中村で



ご回答いただきました。申し込みの際に



いただいた質問や参加者の皆様からたくさん質問をいただき、一つ一つ丁寧にご回答いただきました。

閉会の挨拶は、大阪府支部支部長 中村が挨拶をいたしました。今や医師事務作業補助者はなくてはならない存在であること、それにともなって業務範囲も拡大し、施設によっても業務に幅があったり、教育体制が伴っていない、また医師とのコミュニケーションがとれず短期間で辞める方も多いう、なかなか解決できない問題が置き去りにされている事実立ち向かうため、大阪府支部は実務に沿った知識習得や実務者同士の情報共有目的にセミナーを開催しています。今後もその信念は変わらず、実務者の皆様の支えになれるように心がけ実りある活動を世話人の皆様、参加者の皆様と作り上げる支部を目指してまいりますとご挨拶いたしました。

最後に、今回研究会初のハイブリッドセミナーを開催いたしました。機材・音響設備などのご指導をいただき、たくさんの方に支えていただけて開催できたことは感無量でした。セミナーに参加いただきました皆様、開催にご協力いただきました関係者の皆様に心より感謝申し上げます。

日本医師事務作業補助研究会 大阪府支部支部長 中村アツ子

参加者の方からの質問に回答漏れがございました。申し訳ございません。

太田先生から回答をいただきましたので記載させていただきます。

<質問> 扁平上皮癌はタバコと因果関係があるが、腺癌の発生要因は何か

<回答> 以前はタバコにフィルターが無く、煙の中のタール粒子が大きかったため、中枢軌道に多く付着するため中枢軌道の扁平上皮癌の発生要因としてタバコが考えられていました。最近ではフィルターにより、粒子が小さくなり、細気道まで届くようになり、中枢気道の肺がんが減っています。抹消発生肺がんでは腺癌約 60% 扁平上皮癌約 20%の発生率ですが、小細胞がんとともにタバコがもっとも強い要因と考えられています。